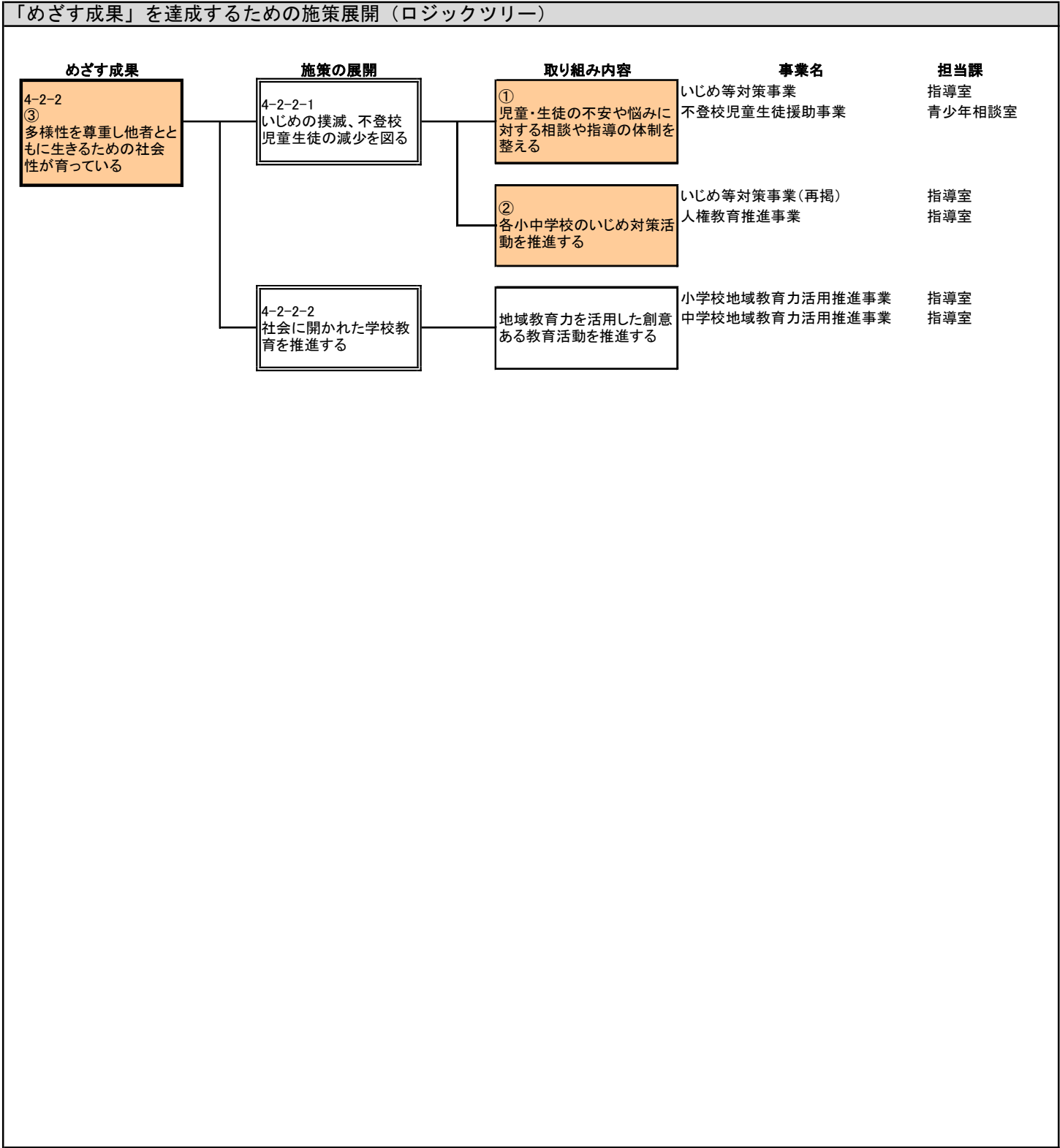


令和３年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4－2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む
めざす成果	4－2－1	心身ともに健康に学校生活を送ることができている
	4－2－2	多様性を尊重し他者ととともに生きるための社会性が育っている
	4－2－3	こどもが豊かな感性を身につけている



所 管 部			教育部				
【成果を計る主な指標】							
指標の名称			前期基本計画期間（Ｒ１～Ｒ５年度）				
			計画当初値	実績値（Ｒ１）	実績値（Ｒ２）	中間目標値（Ｒ３）	最終目標値（Ｒ５）
①	いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	（小）	４６．４％	４８．２％	４７．１％	４９．２％	５０．６％
		（中）	３９．５％	３６．４％	３４．７％	４４．７％	４７．３％
②	いじめ問題の解消率	（小）	８５．４％	８４．９％	８４．３％	９５．０％	１００．０％
		（中）	９３．８％	９３．３％	６６．６％	９８．０％	１００．０％
③	自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	（小４～６）	６５．４％	７５．３％	８２．３％	７１．４％	７５．４％
		（中１～３）	６７．８％	７４．１％	７９．５％	７３．８％	７７．８％
【令和２年度までの主な取り組み内容及び今後の方針】							
施策の展開		主な取り組み内容			今後の方針		
いじめの撲滅、不登校児童生徒の減少を図る		■小中学校におけるいじめの撲滅を目指すとともに、子どもたちが安心して学校生活を送れるような学校づくりに取り組むため、大和市いじめ防止基本方針に基づき、いじめ問題対策協議会（(R2年度)書面開催1回、集合開催1回）や、いじめ問題対策調査会（(R2年度)書面開催2回）を開催しました。 ■スマートフォン用匿名報告・相談アプリケーションを市内全生徒が使用できる環境を整備しました。			■いじめ防止対策推進法の実施に基づきいじめの認知について浸透してきているため、より精度の高い児童生徒理解と認知後の丁寧な対応ができるよう、いじめ防止基本方針の共通理解を進めていきます。		
		■学校教育における人権教育を推進し、教職員の人権意識を高めるため、教職員向けに人権・同和教育に係る研修会を開催しました。（R2年度：9回） ■不登校児童生徒が通室する学校外の施設として、教育支援教室（まほろば教室）を運営し、令和2年度には年間183日開設してカウンセリング・学習支援・人間関係作りの補助等を行うことにより、33人の通室児童生徒のうち、16人が学校復帰しました。 ■教育支援教室通室児童生徒の保護者だけでなく、広く不登校児童生徒の保護者が、互いの悩みを共有し相互支援に繋がるよう、『不登校を考える保護者会』を実施しました。（R1年度：4回、R2年度：3回） ■不登校児童支援員を小学校重点校10校に、また不登校生徒支援員を全中学校に配置し、学校と連携しながら不登校児童生徒への早期の対応を行いました。			■匿名報告・相談アプリケーションを小学校５・６年児童、中学校全生徒の端末からも利用できるよう整備し、今後も、相談が必要な時にスマートフォン等からいつでも利用可能であることを広く周知し、活用を促進させていきます。 ■教職員の人権意識をより高めるために、各学校におけるさまざまな人権教育に係る研修の充実を図ります。 ■学習意欲がありながら登校が難しい児童生徒については、今後も教育支援教室でのカウンセリング・学習支援・人間関係作りを通して、学校復帰へ繋げていきます。 ■令和3年度も広く不登校に悩む保護者がつながる場として、『不登校を考える保護者会』を年間4回開催します。 ■不登校児童生徒支援員の児童生徒への対応や、支援方法について研修や事例等情報の共有を図り、不登校への早期対応を進めます。		
社会に開かれた学校教育を推進する		■学校評議員をはじめ、地域の人材を積極的に活用し、家庭・地域と一体となって開かれた学校運営を行うことにより、学校教育の充実を図りました。 ■文ヶ岡小学校・つきみ野中学校をパイロット校として、コミュニティースクール導入に向けた検討を行いました。 ■学校支援ボランティア人材バンクのファイルを各校へ配付しました。			■学校評議員に限らず、地域のボランティアを学校教育の中で活用し、学校の更なる活性化と地域の特色に合わせた各校の教育目標の達成に努めていきます。 ■今後もコミュニティースクール全校導入のための検討を進めていきます。		